

全国人間科学系部局連携ネットワーク 2024年度年次大会
フォーラム人間科学（於筑波大学, 2024.12.7）

「人間科学とは何か」 を考える

相松 慎也

（武蔵野大学 人間科学部 人間科学科）

0. 自己紹介と前置き

● 専門：哲学

- デイヴィッド・ヒューム（18世紀スコットランド）
- メタ倫理学（道徳・倫理の本性）

● 経歴

- 2023年度まで 東京大学文学部哲学研究室
- 2024年度から 武蔵野大学人間科学部人間科学科

0. 自己紹介と前置き

●講演の経緯

学部長の辻恵介先生より、「自部局の実践に関する学部長講演はすでにやってしまったので、ここは哲学者の観点から「人間科学とは何か」について講演してほしい。武蔵野大学においても「人間の科学から人間科学へ」というテーマの追求は避けられない」とのご依頼を受けて。

0. 自己紹介と前置き

そういうわけで、

- 人間科学部の新任教員の立場から、
これまでの哲学研究を踏まえて、
「人間科学とは何か」について考えてみました。

0. 自己紹介と前置き

ただし、実際にできたことと言えば、

- この問い自体の答えは何も得られておらず、その一歩(?)手前、この問い自体を問う、あるいは、この問いの考え方を考える、というところが限界でしたので、その点ご承知おきください。

1. 「人間科学とは何か」の難しさ

当初はこの問いに直接答えようと試みましたが、主に**2つの理由**でそれはすぐに諦めました。

- ① 「人間」も「科学」もその本質は不確定
- ② 本当に問われているのは「理想」

1. 「人間科学とは何か」の難しさ

① 「人間」も「科学」もその本質は不確定

人間：哲学的人間観は人間諸科学（e.g. 生物学、心理学）の発展に追隨して変容しており、人間の実質はこれからも**当の人間（諸）科学が実証的に少しずつ解明していくもの**。哲学的な思考だけで確定できる対象ではない。

1. 「人間科学とは何か」の難しさ

① 「人間」も「科学」もその本質は不確定

科学：哲学者が外野から「科学とは」と論じても
だいたい失敗する。（e.g. 論理実証主義）
現代の科学哲学では、「**実際に成功している
科学**」を科学の典型として受け入れるのが基
本であり、かつ、**諸科学の多様性**からして一
概に定義できない。（伊勢田 2003）

1. 「人間科学とは何か」の難しさ

② 本当にな問われているのは「理想」

これが本題です。

2. 「人間科学とは何か」が問うもの

- 人間科学の**実情（現状、事実）**ではない。

もしそれでよいなら、「人間科学部」を標榜する既存の部局のありようを調査・報告すればよい。

- ・ 「複数分野の専門家の集合」（養老 2008）
- ・ 「人間の科学（人間に関する諸科学）」（辻）

2. 「人間科学とは何か」が問うもの

「それでは**困る**」というので問い直されている。
つまり、ここで問われ求められている答えは、

- 人間科学の**あるべき姿**（**理想、価値**）。
「**本当の、真の**人間科学とは～だ！」
※説得的定義（Stevenson 1944）

2. 「人間科学とは何か」が問うもの

しかし、物事の**理想や価値そのもの**を学問的に論じるのは非常に難しい。

それは、一介の哲学者の主観や理屈で決めてよいものでないことはもとより、人々の多数決で決めてよいものでもなかろう。

2. 「人間科学とは何か」が問うもの

奴隷制度や差別など、過去に哲学者や多数派によって肯定されたものが、後の世に否定される例などありふれている。

理想や価値は、人が目的をもって共に生きるために、切実に求められ語られるものであるが、常に暫定的で、たえず問い直される必要がある。

2. 「人間科学とは何か」が問うもの プラトンの「善のアイデア」 (=理想)

<省略>

(プラトン『国家』第6巻 505E より引用)

2. 「人間科学とは何か」が問うもの

人間科学のアイデア（理想）——パロディながら

人間科学の理想とは「(a) すべての人間科学者がそれを追い求め、そのためにこそあらゆる研究をなすところのもの、(b) それが確かに何ものであると予感しながらも、しかし、そもそもそれが何であるかについて、人間科学者は困惑して十分に把握することができず、他の専門分野とは違って、確信をもつことができないでいるもの、(c) そしてまさにそのために、そういう他の専門分野についても、そこに何か役に立つものがあったとしても、とらえ損なうことになってしまうような、実にこのような性質の、このように重大なもの」

3. 「人間科学の理想」を求めて

ヒュームの理想：「万学の基礎」たる人間科学

<省略>

(ヒューム『人間本性論』序論第4,6段落

(Hume 1739-40: T 0.4/6) より引用)

3. 「人間科学の理想」を求めて

もちろんこれは前時代的で大言壮語がすぎる理想ですが、どのみち「確信のもてない」理想を求めらるのであれば、これぐらいの気概でもって、「あるべき人間科学」をあれこれ考え、語り合ってもよいかもしれません。

たとえ単一の理想像を共有できずとも、それを考え論じ合うことは「人間科学を専門にする」ということの1つの共通基盤になるのではないかと。

参考文献

- Hume, D. 1739-40. A Treatise of Human Nature. Hume Texts Online. URL=<https://davidhume.org/>
- 伊勢田哲治. 2003. 疑似科学と科学の哲学. 名古屋大学出版会
- プラトン (田中美知太郎・藤沢令夫訳). 1976. プラトン全集11 クレイトポン・国家. 岩波書店
- Stevenson, C. L. Ethics and Language. Yale University Press
- 養老孟司. 2008. 養老孟司の人間科学講義. ちくま学芸文庫
- 全国人間科学系部局連携ネットワーク. 2023. 会報「人間科学」第1巻
- 全国人間科学系部局連携ネットワーク. 2024. 会報「人間科学」第2巻

ご清聴ありがとうございました。